

コラム16：ゴーヤの話

今年も我が家のゴーヤは豊作でした。ここで過去形でいうのは、この文を書いている9月6日現在、最盛期を過ぎた感じなのです。一気に増えてサッと終わる、という感じですね。今年は去年の3倍植えたといっても、苗を買ったのは5株のみで、あとは、昨年植えた場所から出てきた小さな苗を植え付けただけなんですけどね。同じ品種を買ったはずが、実がなってみると少なくとも3種類、かたちや大きさも違い、ラベルはあてにならないな、と思いました。それでも、それぞれ良く出来て、味もいいので文句はありません。



できたゴーヤは、とても自分の所では食べきれませんから、ご近所、親戚、友人、そしてこれが一番の大口なのですが、妻が自分の勤める会社の人たちに持って行きます。もちろん代金などは、いただきません。なにしろ、「つくったもの」ではなく、「できたもの」ですからね。イチゴのように、施設や肥料や薬品に資金をかけ、そのうえ大変な労力と時間をかけて、やっとの思いで「商品」にするものとは、まるで違います。



ゴーヤを取るまでに、私のやった事と言えば、堆肥を入れ込んで土を作り、支柱を立ててネットを張って植え込んだのみ。あとは毎日の水やりと、すごい速さで上に伸びてくる茎を、時々横へ誘引してやるくらいですかね。それから、大きな実となったゴーヤの取り入れ作業が私の早朝の日課作業です。これが、意外に難しい仕事でしてね。ゴーヤは、まるで鬱蒼と茂った葉の中に隠れるようになっていることが多いのですね。上からぶら下がっているのを見逃すことはありませんが、下の方に隠れていたのは気づいた時には、黄色に変色した巨大な塊になっていたこともありました。



ゴーヤを人にあげると、いろいろと食べ方を教えてもらうのも楽しみです。いつもゴーヤチャンプルというのでは、飽きますしね。私が一番気に入っているのは、朝食に飲むミックスジュースです。作り方は実に簡単。ゴーヤを5cm程度切って、中身をスプーンで抉り取ってから、輪切りにします。それにバナナを半分程度を輪切りにして、いっしょにジューサーに入れこみ、牛乳 100cc と氷を少々加えて、あとはスイッチを入れるのみ。これで一人分ですが、うすいグリーンミルクセーキのようで、全く苦味もなく、美味しいですよ。ゴーヤはシーズンが過ぎても、冷凍しとけば大丈夫ですから、まだ当分飲めそうです。



ある時、事務所の窓から、日除けにしているゴーヤを見ていると、黒い棒状のものが目の前にあるのですが、それがどうも上に向かって動いているようなのです。さらに上を見ると何と「蛇さん」です！それほど驚くほどの事ではないのです。私の家の庭にかなり以前から居ついて、時々姿を見せる、1メートル余りのシマヘビです。別に悪いことをするわけでもないし、こちらを襲ってくるわけでもない「貴重な生物」なので、私は少し敬意をはらって「蛇さん」と呼んでいます。

どうして彼がゴーヤのフェンスを登っていたのかはわかりません。多分、彼にとっての「獲物」さがしか、心地よい「住処」を探していたのでしょう。広島市郊外の私の住んでいる辺りでも、めったに彼の姿を見ることがなくなりました。私の家の周りのは、田んぼや畑が残っていて、小さなカエルやコオロギをよく見ますから、まだ生息しているのでしょうね。いつの日か「蛇さん」も「絶滅種」となって消えてゆくのかもしれません。その前に「人間」だって危ないもんだと思うのですが・・・。

「今年の夏はゴーヤを、えっと食ったけえ夏バテせんかったわい。ワシも絶滅せんよう、死ぬまでガンバらんといけんのう」

(’12・9・15)